

2022年度（令和4年度）第1回渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 会議録

1 日時

2022年6月17日（金） 午後1時30分から2時45分まで

2 場所

東三河農業普及指導センター 大研修室

3 出席者

渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 構成員

4 会議内容

(1) 開会

(2) あいさつ（農業水産局農政部農業振興課 野生イノシシ対策室 小出室長）

- ・養豚場における豚熱の感染状況について、県内では2019年12月以降感染事例が確認されていないが、今年4月以降も6月15日の群馬県での事例を始めすでに5例確認されている。また、野生イノシシについては、今年4月以降3例の感染個体が確認されており、予断を許さない状況である。
- ・今回の協議会では、これまでの捕獲状況や今年度の取組内容について説明させていただくので、率直な意見をいただきたい。

(3) 議事（議長：野生イノシシ対策室 小出室長）

① 野生イノシシ捕獲根絶に向けた状況について

- ・資料1、1-1、1-2に基づき事務局から説明。

【概要】

- ・生息状況調査の結果、渥美半島における野生イノシシの生息頭数の推定値は、2020年度と比べ2021年度は増加した一方で、野生イノシシの捕獲頭数は2019年度をピークに年々減少している。
- ・田原市及び豊橋市における2022年度5月末時点の野生イノシシの捕獲頭数について、豊橋市は直近3年度と同程度だったが、田原市では直近5年度で最も少なかった2021年度と比べてもさらに減少している。
- ・歯列調査の結果、捕獲個体のうちの成獣の割合について、2020年度と比べ2021年度は高くなっており、成獣の捕獲割合が増加している。
- ・野生イノシシの豚熱の感染状況について、2021年10月に県内では約1年ぶり豚熱陽性個体が確認されて以降、県内で計10件確認されており、予断を許さない状況である。

【質疑・意見等】

(有識者) 今年度、渥美半島で野生イノシシを捕獲根絶する場合の頭数を試算されているが、実際にこの頭数を捕獲するのは現実的ではないと思う。実際、個体数を減らしていくために今年度どれぐらいの頭数を捕獲すればよいか試算しているか。

(事務局) 現状できていない。

(有識者) 年度始めの協議会なので、具体的な捕獲目標が示されるといいと思う。来年度からは実効的な捕獲目標値を示せるよう検討いただきたい。

(狩猟連合田原) イノシシの捕獲個体から豚熱の検査を行うため、検体を採取しても検体の状態が悪くなく、検査ができないケースもあると思う。県で検査結果を公表しているが、検査できなかった場合の扱いは、陰性扱いとなるのか。

(事務局) 公表させていただいているのは、検査の結果、陽性または陰性の結果が出たもののみ。検査できなかった検体は計上していない。

② 2021年度の取組結果及び2022年度の取組内容について

- ・ 資料2に基づき事務局から説明

【概要】

- ・ 今年度の捕獲目標頭数は、田原市及び豊橋市の有害鳥獣捕獲、県が実施する指定管理鳥獣捕獲等事業を合わせて、計830頭
- ・ 鳥獣被害防止総合対策事業費補助金の県の上乗せ額について、今年度から成獣捕獲推進のため、成獣と幼獣で差を設けている。
- ・ 昨年度、初めて実施した効果的捕獲促進事業について、今年度も捕獲手法の検討・試行を実施する予定。手法を検証するうえで、実践する場所の確保が不可欠。実践する際には実施場所の確保に協力いただきたい。
- ・ イノシシの移動防止柵について、破損等が認められた場合、地元市や県に情報提供いただきたい。
- ・ 捕獲の担い手育成のため、今年度から県内の認定鳥獣捕獲等事業者の捕獲従事者を対象とした育成事業を実施する予定
- ・ 今年度の捕獲事業では、生息状況調査で生息が確認されている一方で、捕獲が進んでいない場所での捕獲を進めていきたいので、関係者等の連携・協力をお願いしたい。
- ・ 今後、イノシシの捕獲頭数が減少していくと、捕獲従事者の捕獲意欲が減退し、わなの稼働率が低下する可能性があり、対策が必要
- ・ 今年5月に、山口県で発見されたイノシシの豚熱陽性事例から、豚熱ウイルスが何らかの人の活動を介して、遠隔地から持ち込まれた可能性がある旨の報告があり、引き続き、捕獲従事者を始め、養豚農家等関係者においては、防疫対策の徹底をお願いしたい。

【質疑・意見等】

(狩猟連合豊橋) 捕獲頭数が減っている要因として、捕獲従事者の捕獲意欲の減退が挙げられているが、それより生息頭数が減っている要因の方が、影響が大きいと思う。

前回の協議会でも発言したと思うが、イノシシの幼獣を意図的に捕っている訳ではなく、現場で成獣が捕れるよう工夫しているが捕り分けるのは難しい。成獣の捕獲を進めていかなければならないことは理解しているが、幼獣もいずれ、繁殖するので、個体数を減らすため捕獲の効果はないわけではないと思う。

イノシシの捕獲を推進するなかで助成金が下がると、捕獲従事者のモチベーションは下がると思う。

(事務局) 国からの助成金も成獣、幼獣で差が設けられている。この県の上乗せの助成金を始めた当初は、県内のイノシシの生息密度を下げるため、抗体を持たない時期がある幼獣も豚熱を感染拡大させるリスクがあったため、成獣・幼獣区別せず、捕獲を進めていた。

その後、県内で豚熱が確認されてから、捕獲頭数が減少し、県内でも陽性個体が確認されなくなっていた状況から、今後は、成獣になる前に一定数は死亡するといわれている幼獣より、個体数を減らす効果が大きい成獣の捕獲を進めることがより重要だという考えで、見直した。幼獣もできれば、親と一緒に捕獲して欲しい。

(狩猟連合田原) 指定管理鳥獣捕獲等事業や、昨年度の効果的捕獲促進事業で実施していた PIG BRIG TRAP SYSTEM の成果は挙がっているのか。昨年度の成果からも、新しい手法の開発も捕獲現場や捕獲手法を熟知している事業者・作業員を入れた方が効果的にできるのでは。

(事務局) 指定管理鳥獣捕獲等事業は、有害鳥獣捕獲で手薄な場所で、捕獲を進めていく必要がある場所で実施しており、PIG BRIG TRAP SYSTEM については、昨年度の事業は手法の洗い出しが中心で、試行できる期間が短かったが、今年度は捕獲の実証が中心となる見込み。

(JAあいちみなみ) イノシシの生息状況調査の結果、生息頭数が増加している一方で、捕獲頭数が減少している。イノシシの生息頭数について、捕獲を実施されている現場の感覚はどうか。

(狩猟連合豊橋) 豊橋市南部表浜の方では、そこまで極端ではないが、以前と比べると減っている。豊橋市北部の石巻の方は、激減していると思う。

(狩猟連合田原) だいぶ少なくなっていると思う。生息状況調査の結果も、その手法から必ずしも実際の状況を示せていないと思う。

(JAあいちみなみ) 養豚農家でもワクチン接種等、対策を進めている。国内ではまだ、養豚場で豚熱の感染事例が確認されており、豚熱を媒介するといわれているイノシシは脅威になるので、減らして欲しいと思う。イノシシを減らすためには狩猟団体の協力が不可欠であり、捕獲従事者のモチベーション

を上げていかなければいけないと思う。

(有識者) イノシシの生息密度を推定する確立した方法がないと言われており、現在、その方法の検証が進められている状況。生息状況を把握していくためには、この手法に限らず、地元捕獲従事者の意見であったり、CPU E等を複合的に見ていくといいと思う。

(事務局) 県内の他の地域でのイノシシの生息状況について、捕獲頭数が伸びており、自動撮影カメラで確認しても親子連れがよく映っていることから、県内の生息頭数が増えてきていると思う。田原市、豊橋市では捕獲従事者さんの今までの努力のおかげで、捕獲が進み、捕獲頭数が減少しているが、他の地域と同様増えないよう低い水準で個体数管理していきたい。

⑤その他

- ・事務局から連絡事項